

青年期における性役割形成と生活感情との 関連について

A Study of The Relation between Gender-Role Formation and Philosophy of Life in Adolescence

芳 田 茂 樹
Shigeki YOSHIDA

1. はじめに

Erikson, E.H. (1959)¹⁾によれば、青年期は、自我同一性の確立される時期であると定義づけられている。乳・幼児期から児童期までの間に、人間は周囲の人々と様々な感情的関係を経験し、その関係の中で、成長、発達にとって大切な事柄を学び取っている。

ところが、青年期になると、自分自身への反省的な意識が向けられるようになる。自分自身に目が向けられてみると、いろいろな人から影響された多様な特性があり、どれが本当の自分自身なのか混乱する。青年は、児童期までに確立した人格を試行錯誤を繰り返しながら再構成する。そして再構成された自己を「同一性」と呼んだ。この様な同一性の確立は、自分自身が「男であること」また「女であること」の認識、充実感、価値観などをその構成要素とし包含しており、性役割の形成や生活感情もその中心的課題の一つであると言える。

2. 青年期の性役割形成について

Bem, S. (1974)²⁾は、人間には両性性的存在すなわち男性性と女性性との両方をあわせ持っており、状況に応じて男性的であったり女性的であったりすることができる場合があること、また強く性別化している人間は、状況に対応して取りうる行動の範囲が限られているという2つの仮説をたてた。この仮説をもとに作成されたのが、Bem Sex-Role Inventory (BSRI)である。BSRIを使用して調査を行った結果から、人間はその性役割同一性の獲得のレベルにより4タイプに分類することができる。4タイプとは、未分化（無性性）：Undifferentiated、女性性：Feminine、男性性：Masculine、両性性：Androgynousであり、発達の位層をなすものと考えられる。

芳田(1989)³⁾は、Bem, S.が開発したBSRIを使用して、青年期の性役割形成について調べた。その中で、性役割同一性の形成において従来までの研究で言われてきた、無性性(Undifferentiated)から女性性(Feminine)－男性性(Masculine)－両性性(Androgynous)という発達過程をたどるという仮説は、必ずしも男女に等しく当てはめて言うことは出来ず、

青年期における性役割形成と生活感情との関連について

むしろ、無性性的性役割同一性（未分化な性役割同一性）から同性性的性役割同一性（男子では、男性性的性役割同一性、女子では、女性性的性役割同一性）がまず習得され、その上に異性性的性役割同一性（男子においては、女性性的性役割同一性、女子においては、男性性的性役割同一性）が包含され、最後に両性性的性役割同一性として統合されるのではないかと結論づけた。

3. 青年期の生活感情について

青年期は、自分自身の同一性感を感じ始める時期である。人がユニークな存在であり、社会の中で何か意味ある役割を進んで果たしたいという感覚にはかならない。Eriksonによれば、自我の感覚とは、内的不変性と連続性とに合致する経験から生まれた自信のことであると考え、この時期を迎えた人は、個人固有の特徴、予想された将来の目標、自分自身の運命を統制する力に気づき、現在の自分が何であるか、将来何でありたいかを決めたいと思うようになる。すなわち、自尊感情の現れである。

遠藤(1981)⁴⁾は、自尊感情とは、社会とのかかわりの中での特定の役割、価値観の達成を通して獲得される自己価値についての確信である自我同一性感から確証された自己評価であると定義づけ、さらに心理的現象としての自尊感情は、人間の社会的行動、例えば、他者の表出に対する反応、社会参加を規定する重要な要因と考えた。Rosenberg, M.⁵⁾は、セルフ・イメージの中核的概念として自尊感情に注目した。彼は、自尊感情を1つの特別な対象、即ち自己に対する肯定的あるいは、否定的態度であると定義した。しかし、自尊感情には、全く異なった意味が存在する。一つは、自分を「非常によい (Very good)」と考える場合であり、もう一つは、自分を「これでよい (Good enough)」と考える場合である。このように、自分自身を多くの他の人よりも優れていると考えることも可能であり、自分自身に対して設けているある基準に照合して不適切であると感じることも可能である。

逆に、自分を平均的人間であると考えている人が、観察している自己にまったく満足していることもある。このような感情を自尊感情と呼んでいる。

五味(1981)⁶⁾は、青年期に支配的な感情は、不安感や孤独感と共に青年期特有の感傷性である。青年期感傷性ともいえるこの傾向こそ、青年の自我同一性と青年の全生活空間を反映した基底気分というべきものであり、根源的感受性に由来した最も青年的な生活感情であるとしている。

西平(1979)⁷⁾は、生活感情、特に充実感の問題に関連して、現代日本青年の心理的特質を考察し、心情モデル（図1）を提出した。このモデルについて西平は、青年が信頼・自立・連帯を育て、アイデンティティ統合をめざして生きる場合、生活気分は、感動・希望・愛情によって活性化され、充実感・生きがい感によって彩られる。一方、不信・甘え・孤立によりアイデンティティが拡散したり、否定的アイデンティティに固執する場合、不満・熱狂・失望・憎悪によって生活気分は、「しらけ」たものになると述べている。

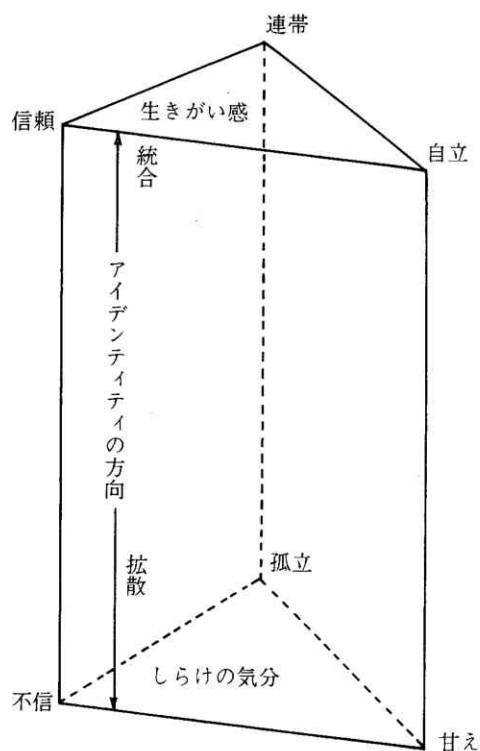


図1 現代日本青年の心情モデル (西平, 1979)

西平(1973)⁸⁾は、青年期の充実感を、その健康な自我同一性の実感であると指摘した。また、大野(1984)⁹⁾は、青年の充実感が、その青年の自我同一性の様相を反映するものであるとすると、自我の確立、自我同一性の確立の時期である青年期の心理の一側面を理解する上で、青年の充実感を研究することは、非常に興味深いことであるとしている。

従来、生きがい感が充実感と類似した概念として、青年心理学の領域で取り扱われてきた。その中でも特に、青年が、健康な自我同一性を統合していく過程で感じられる自己肯定的な感情を充実感と呼んでいる (大野 1984)¹⁰⁾。

青年期の人格形成を理解していく上で、Erikson, E.H.の自我同一性という概念が、青年の心理を理解する鍵概念であり、自我同一性にかかわる性役割、自尊感情、充実感、人格形成をとらえるための主要概念である。その自我同一性と自尊感情・充実感に関連があることは、既に指摘されている。

現代という時代の中で、青年が自己を確立しようとする時、どのような生活感情をもっているのだろうか。本研究では、現代青年がどのように感じ、またいかに生きているかということを理解するために、前号で発表した「青年期の性役割形成についての研究」の結果を踏まえて青年期の性役割形成と生活感情との関連から、青年期の人格形成について検討することを目的に行った。

4. 方 法

(1). 調査対象

被験者は、大阪府下にあるO学院大学大学生、男子162名、女子120名、合計282名であった（表1）。学部・学科は、特定しなかった。また、学年についても1回生から4回生までに渡っていた。

表1 被験者数及び有効DATA数

	被 験 者	有効DATA
男	162	157
女	120	114
計	282	271

(2). 調査用紙

前記の目的を解明するために、Bem, S.のBSRI及び自尊感情尺度、充実感尺度を使用して資料を収集した。

①自尊感情尺度（Self-Esteem scale）

遠藤らが、Janis, I.L.らの質問紙をもとに作成した4因子23項目から構成されているものをそのまま使用した。

23項目全てについて、「非常にしばしば思う」（5点）、「かなりしばしば思う」（4点）、「ときどき思う」（3点）、「たまに思う」（2点）、「ほとんど思わない」（1点）までの5段階評定尺度法で、現在の自分の気持ちを自己記述させた。

個人の自尊感情は、肯定的項目の総和と、否定的項目を逆点加算した総和の合計点によって表示される。

②充実感尺度（Fulfillment-sentiment scale）

充実感尺度は、前述したように大野が、現代青年の充実感を測定するために作成した尺度53項目から、本研究の目的に照合した32項目を抽出し使用した。抽出の基準としては、4因子において因子負荷量の高かったものの32項目を抽出した。

各項目について、「今の自分に非常にあてはまる」（5点）、「今の自分にややあてはまる」（4点）、「どちらともいえない」（3点）、「今の自分にあまりあてはまらない」（2点）、「今の自分に全くあてはまらない」（1点）の5段階評定尺度法で現在の自分の気持ちを自己記述させた。個人の充実感の程度は、肯定的項目の総和および否定的項目を逆点加算した総和の合計点で表される。

(3). 調査実施方法

調査の実施方法は、集団一斉法で行った。実際には、筆者自身が教示者となり講義時間を利用し、一斉に被験者に調査用紙を配付し、所要時間20分～25分で回答させ、回収した。

大手前女子学園（大手前女短大研集）「研究集録」第10号（1990年）

(4). 調査時期

調査時期は、1987年7月、10月であった。

(5). 資料の整理

回収した資料の中から、各項目に完全に回答したもののみを資料として採用した。除外したものは、明らかに不真面目な態度で回答したと思われるもの、回答で項目に脱落のあるものなどである。その結果、有効データ数は、男子157名、女子114名、合計271名であった（表1）。

5. 結 果

(1). 自尊感情について

①男子について

表2 男子の自尊感情の結果

	Male	
<i>N</i>	157	
	Mean	SD
Self-Esteem	65.18	17.45

表3 男子の性役割4タイプの自尊感情についての平均値とSD値

	Androgynous		Masculine		Feminine		Undifferentiated	
<i>N</i>	57		14		64		11	
	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
Self-Esteem	70.65	16.52	76.86	13.27	58.59	16.81	60.00	17.91

表2は、男子の自尊感情についての結果であるが、男子全体の平均値は、65.18であった。次に、男子における性役割4タイプについての自尊感情の平均値とSD値を表したものが、表3である。それによると、Androgynousタイプ、Masculineタイプの平均値は、75.65、76.86であり、全体の平均値65.18を上回っている。さらに得点は、高い方からMasculineタイプ、Androgynousタイプ、Undifferentiatedタイプ、Feminineタイプの順であった。性役割4タイプ間の自尊感情についてt検定により検討した結果が、表4に示されている。AndrogynousタイプとFeminineタイプ、MasculineタイプとFeminineタイプ、AndrogynousタイプとUndifferentiatedタイプ、MasculineタイプとUndifferentiatedタイプ間には、それぞれ有意な差が見られたが、AndrogynousタイプとMasculineタイプ、FeminineタイプとUndifferentiatedタイプ間には、有意差はみられなかった。

②女子について

表5は、女子の自尊感情の平均値とSD値を示したものである。女子全体の自尊感情に

青年期における性役割形成と生活感情との関連について

についての平均値は、62.45であった。表6は、女子の性役割4タイプの自尊感情についての平均値とSD値を表したものである。表6に示したように、Androgynousタイプの平均値67.61とMasculineタイプの平均値74.31は、女子全体の平均値を上回っているが、Feminineタイプでは58.26、Undifferentiatedタイプでは55.00と全体の平均値より低かった。また、平均値は、Masculineタイプ、Androgynousタイプ、Feminineタイプ、Undifferentiatedタイプの順であった。次に、性役割4タイプ間の自尊感情の平均値の差の検定結果が、表7に示されている。自尊感情の平均値は、AndrogynousタイプとFeminineタイプ、MasculineタイプとFeminineタイプ、AndrogynousタイプとUndifferentiatedタイプ、MasculineタイプとUndifferentiatedタイプ間では、それぞれ前者が有意に高かったが、AndrogynousタイプとMasculineタイプ、FeminineタイプとUndifferentiatedタイプでは差は認められなかった。

表4 男子。性役割4タイプそれぞれの自尊感情の平均値の差の検定結果

	t
A - M	1.2881
A - U	3.9369 ***
M - F	3.7641 ***
A - F	1.9018 ▲
M - U	2.5917 *
F - U	0.2504

▲=P<.1, *=P<.05, ***=P<.001

表5 女子の自尊感情の結果

	Female	
N	114	
	Mean	SD
Self-Esteem	62.45	16.01

表6 女子の性役割4タイプの自尊感情についての平均値とSD値

	Androgynous		Masculine		Feminine		Undifferentiated	
<i>N</i>	41		9		39		19	
	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
Self-Esteem	67.61	15.17	74.33	16.12	58.26	14.83	55.00	12.83

表7 女子。性役割4タイプそれぞれの自尊感情の平均値の差の検定結果

	t
A - M	1.1661
A - F	2.7518 **
M - F	2.8222 **
A - U	3.0869 **
M - U	3.2940 **
F - U	0.8051

** = $P < .01$

(2). 充実感について

①男子について

表8は、男子の充実感についての平均値とSD値である。男子全体の平均は、96.05であった。表9は、男子において性役割4タイプそれぞれの充実感についての平均値とSD値である。この表から、男子の全体の平均値を上回っているものは、Androgynousタイプ105.98とMasculineタイプ96.93であったが、逆にFeminineタイプ90.23、Undifferentiatedタイプ76.18では全体平均を下回っていた。また、充実感は、Androgynousタイプ、Masculineタイプ、Feminineタイプ、Undifferentiatedタイプの順に高い。

表8 男子の充実感の結果

	Male	
<i>N</i>	157	
	Mean	SD
Fulfillment-Sentiment	96.05	19.73

青年期における性役割形成と生活感情との関連について

表 9 男子の性役割 4 タイプの充実感についての平均値とSD値

	Androgynous		Masculine		Feminine		Undifferentiated	
<i>N</i>	57		14		64		11	
	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
Fulfillment-Sentiment	105.98	16.66	96.93	19.22	90.23	18.57	76.18	19.82

次に、性役割 4 タイプ間の充実感について比較検討した結果が、表10である。表10に示されているように、充実感はAndrogynousタイプとMasculineタイプ、AndrogynousタイプとFeminineタイプ、AndrogynousタイプとUndifferentiatedタイプ、MasculineタイプとUndifferentiatedタイプ、FeminineタイプとUndifferentiatedタイプでは、それぞれ前者が有意に高いが、MasculineタイプとFeminineタイプでは、有意差は見られなかった。

表10 男子。性役割 4 タイプそれぞれの充実感の平均値の差の検定結果

	t
A - M	1.7402 ▲
A - F	4.8452 ***
M - F	1.1981
A - U	5.1801 ***
M - U	2.5344 *
F - U	2.2638 *

▲=P<.1, *=P<.05, ***=P<.01

②女子について

女子の充実感についての平均値とSD値を示したのが、表11である。女子114名の充実感の平均値は、98.46であった。表12は、性役割 4 タイプの充実感についての平均値とSD値を示したものである。女子全体の平均値(98.46)を上回っているのは、AndrogynousタイプとMasculineタイプであった。FeminineタイプとUndifferentiatedタイプ、は全体平均値より低かった。また、Androgynousタイプ、Masculineタイプ、Feminineタイプ、Undifferentiatedタイプの順であった。

表11 女子の充実感の結果

	Male	
<i>N</i>	114	
	Mean	SD
Fulfillment-Sentiment	98.46	20.53

表12 女子の性役割4タイプの充実感についての平均値とSD値

	Androgynous		Masculine		Feminine		Undifferentiated	
<i>N</i>	41		9		39		19	
	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD
Fulfillment-Sentiment	108.63	17.00	100.00	16.99	96.00	19.53	85.32	19.68

表13 女子。性役割4タイプそれぞれの充実感の平均値の差の検定結果

	t
A - M	1.3523
A - F	3.0519 **
M - F	0.5550
A - U	4.6173 ***
M - U	1.8540 ▲
F - U	1.9165 ▲

▲=P<.1, **=P<.01, ***=P<.001

これら4タイプの充実感についてt検定を行った結果が、表13である。女子の充実感を性役割4タイプ間で比較すると、Androgynousタイプは、Feminineタイプ及びUndifferentiatedタイプより有意に高かったが、Masculineタイプとは有意差は見られなかった。また、Undifferentiatedタイプは、Masculineタイプ、Feminineタイプよりも有意に低い傾向が見られたが、MasculineタイプとFeminineタイプの間には、有意差は認められなかった。

(3). 性役割と自尊感情との関連について

①男子について

表14は、男子大学生の性役割4タイプ間における自尊感情尺度の項目分析結果である。

Androgynousタイプは、Masculineタイプと比較すると第1因子の項目9・10・21・23で有意差がみられ、他者からの評価を気にしないことが示されている。また、第3因子の項目11・12・13・18でも有意差が認められ、社会的場面での不安は低いと言える。AndrogynousタイプとMasculineタイプは、第2因子及び第4因子では、差は認められなかった。

表14 男子における性役割4タイプ間についての自尊感情尺度の項目分析結果 (X² or Fisher直接確率)

		AND(57)		MAS(14)		FEM(64)		UND(11)		A-M	A-F	A-U	M-F	M-U	F-U
		H	L	H	L	H	L	H	L						
I	9. あなたは、自分が他の人々とどのくらいやってゆけるかどうかについて気にしますか。	17	40	8	6	22	42	4	7	▲		☆		☆	☆
	10. あなたは、あなたの仕事ぶりや成績を審査する立場にある人の批評をどのくらい気にしますか。	13	44	8	6	14	50	4	7	*		☆	**	☆	☆
	15. 他の人からあなたが優等生とみられているか、あるいは劣等生とみられているかということについてあなたは気になりますか。	32	25	9	5	33	31	6	5						
	19. 他の人があなたと一緒に入ることを好んでいるかどうかについて、あなたは気にしますか。	22	35	8	6	16	48	4	7			☆	*	☆	☆
	20. あなたは、恥ずかしくてどうにもならないと思うことがありますか。	26	31	5	9	20	44	4	7			☆		☆	☆
	21. 自分の意見に同意しない人々を説得している場合、あなたは自分が相手にどのような印象を与えているかということが気になりますか。	22	35	10	4	16	48	5	6	* ☆			** ☆	☆	
	22. あなたの友達や知り合いの中にあなたのことを良く思っていない人がいるかも知れないと考えるとき、あなたはそのことをどのくらい気にしますか。	18	39	7	7	19	45	6	5						
II	23. 他の人があなたのことをどのように考えているかということが、あなたはどのくらい気になりますか。	20	37	9	5	11	53	6	5	*	*		***		**
	2. あなたは、自分が価値ある人間であると感じていますか。	17	40	3	11	4	60	0	11	☆	*** ☆	----	☆	----	----
	3. あなたは、自分の知っている人々がいつかはあなたを尊敬の眼をもって仰ぎ見る日が来ると確信していますか。	13	44	2	12	4	60	2	9	☆	** ☆	☆	☆	☆	☆
	7. 一般に、あなたは自分のいろいろの能力についてどのくらい自信を持っていますか。	28	29	6	8	4	60	1	10		*** ☆	* ☆	** ☆	▲ ☆	☆
III	11. あなたは、他の人々がすでに集まって話し合っている部屋に自分一人で行っていきような場合、気がねや不安を覚えますか。	19	38	9	5	10	54	0	11	*	*	----	***	----	----
	12. あなたは、人前を気にしたりはにかみをおぼえることがありますか。	16	41	9	5	6	58	4	7	*	**		***	☆	* ☆
	13. あなたは、クラスや自分と同年輩の人々のグループの前でしゃべらなければならないとき、心配したり不安に思ったりしますか。	22	35	10	4	21	43	3	8	* ☆		☆	**	* ☆	☆
	14. 他の人々が観ているところで、ゲームやスポーツをやっており、それにぜひ勝とうと思っている場合、あなたは普通どのくらいまごついたり（あがったり）しますか。	19	38	5	9	19	45	3	8			☆		☆	☆
	16. 人と一緒にいるとき、あなたはどんなことを話題にしたらいいかについて、困りますか。	27	30	9	5	25	39	3	8			☆		▲ ☆	☆
	17. とんでもないミスやバカにされるような大失敗をしでかしたとき、あなたはどの位長くそのことを気にしますか。	22	35	6	8	11	53	3	8		**	☆	*	☆	☆
	18. あなたは、初対面の人に会ったとき時間つぶしに話をするのが難しいですか。	18	39	8	6	14	50	2	9	*		☆	**	▲ ☆	☆
IV	1. あなたが知っている大部分の人々に比べて自分の方が劣っていると感じるようなことがありますか。	28	29	8	6	13	51	5	6		***		**		▲
	5. あなたは、自分について落胆するあまり、何が一体価値あるものだろうと疑いをおぼえることがありますか。	25	32	7	7	27	37	5	6						
	6. あなたは、自己嫌悪をおぼえること（自分で自分がいやになること）がありますか。	21	36	6	8	18	46	4	7					☆	☆
	8. あなたは、自分にはうまくやれることなど全然ないといった気持になることがどのくらいありますか。	43	14	8	6	33	31	2	9		**	*** ☆		▲	* ☆
	4. あなたは、自分の過誤（ミス）は自分のせいだと感じる事がどのくらいありますか。	10	47	3	11	7	57	4	7	☆			☆	☆	* ☆

▲=P<.1, *=P<.05, **=P<.01, ***=P<.001

- 注) ☆はFisherの直接確率法、----は検定不能項目
 I…他者からの評価を気にする程度に関する因子
 II…自己の価値感に関する因子
 III…社会的場面における不安に関する因子
 IV…劣等感に関する因子

青年期における性役割形成と生活感情との関連について

次に、AndrogynousタイプとFeminineタイプについてであるが、最も顕著な差は第2因子にみられ、自己の価値観については、Androgynousタイプの方が、有意に高く評価する人が多かった。また、第3因子では、項目11・12・17に差がみられ、他人とのかかわりで不安をおぼえたり、ミスを気にする人が少ない。第4因子では、項目1・8に差があり、他者に対する劣等感及び能力への劣等感については、Androgynousタイプの方がFeminineタイプの人よりも多くの人が感じている。第1因子については、項目2・3のみAndrogynousタイプの方がFeminineタイプより、他者の評価を気にする人が多かった。

AndrogynousタイプとUndifferentiatedタイプでは、自尊感情の4因子に殆ど差がみられず、僅かに第2因子の項目7と第4因子の項目8にのみ有意差がみられたにすぎない。

MasculineタイプとFeminineタイプについて比較してみると、第1因子では、項目10・19・21・23に差がみられ、第2因子では、項目7に差がみられた。第3因子の社会的場面における不安に関する因子では、項目11・12・13・17・18に差がみられ、Masculineタイプの方がFeminineタイプよりも高い不安を示した比率が大きかった。第4因子では、項目1にのみ差がみられた。

UndifferentiatedタイプとMasculineタイプでは、第3因子の項目13にのみ有意な差がみられ、また、第2因子の項目7、第3因子の項目16・18、第4因子の項目8に有意な傾向がみられたにすぎない。

UndifferentiatedタイプとFeminineタイプでも、殆ど有意な差はみられず、第1因子の項目23、第3因子の項目12、第4因子の項目8にのみ有意な差が示された。

②女子について

表15に女子学生の性役割4タイプ間における自尊感情尺度の項目分析結果が示されている。この表から、女子では性役割4タイプ間において自尊感情の内容に差がみられたのは、第1因子と第3因子においてのみであり、第2因子、第4因子には、差がみられなかった。次に各タイプ間で比較してみると、AndrogynousタイプとMasculineタイプでは、第1因子の項目10・19・23に有意差がみられた。

AndrogynousタイプとFeminineタイプ間では、第1因子の項目22、第3因子の項目12・13・16・18に有意差があり、社会的場面における不安は、Androgynousタイプの方がFeminineタイプより多くの人が感じている。

AndrogynousタイプとUndifferentiatedタイプを比べると、第3因子の項目11・12・16・18に有意な差があり、Androgynousタイプの方がUndifferentiatedタイプより社会的場面での不安を感じる人の割合が高い。

女子のMasculineタイプとFeminineタイプにおいては、第1因子の項目16・19・23に差があり、Masculineタイプの方がFeminineタイプよりも他者の評価を気にする人の比率が高い。また、第3因子では、項目11・12・13に差がみられた。

表15 女子における性役割4タイプ間についての自尊感情尺度の項目分析結果 (X² or Fisher直接確率)

		AND(41)		MAS(9)		FEM(39)		UND(19)		A-M	A-F	A-U	M-F	M-U	F-U
		H	L	H	L	H	L	H	L						
I	9. あなたは、自分が他の人々とのくらいやってゆけるかどうかについて気にしますか。	14	27	5	4	10	29	4	15	☆		☆	▲	☆	☆
	10. あなたは、あなたの仕事ぶりや成績を審査する立場にある人の批評をどのくらい気にしますか。	8	33	7	2	8	31	3	16	* ☆		☆	** ☆	** ☆	☆
	15. 他の人からあなたが優等生とみられているか、あるいは劣等生とみられているかということについてあなたは気になりますか。	26	15	8	1	21	18	14	5	☆			▲ ☆	☆	
	19. 他の人があなたと一緒に入ることを好んでいるかどうかについて、あなたは気にしますか。	10	31	6	3	5	34	3	16	* ☆		☆	** ☆	* ☆	☆
	20. あなたは、恥ずかしくてどうにもならないと思うことがありますか。	20	21	5	4	16	23	6	13	☆			☆	☆	
	21. 自分の意見に同意しない人々を説得している場合、あなたは自分が相手にどのような印象を与えているかということが気になりますか。	15	26	6	3	13	26	5	14	☆			▲ ☆	▲ ☆	
	22. あなたの友達や知り合いの中にあなたのことを良く思っていない人がいるかも知れないと考えるとき、あなたはそのことをどのくらい気にしますか。	17	24	4	5	8	31	7	12	☆	*		☆	☆	
	23. 他の人があなたのことをどのように考えているかということが、あなたはどのくらい気になりますか。	12	29	6	3	6	33	4	15	* ☆		☆	** ☆	* ☆	☆
II	2. あなたは、自分が価値ある人間であると感じていますか。	5	36	1	8	3	36	0	19	☆	☆	---	☆	---	---
	3. あなたは、自分の知っている人々がいつかはあなたを尊敬の眼をもって仰ぎ見る日が来ると確信していますか。	2	39	0	9	0	39	0	19	---	---	---	---	---	---
	7. 一般に、あなたは自分のいろいろの能力についてどのくらい自信を持っていますか。	6	35	0	9	1	38	1	18	---	▲ ☆	☆	---	---	☆
III	11. あなたは、他の人々がすでに集まって話し合っている部屋に自分一人が入っていくような場合、気がねや不安を覚えますか。	16	25	5	4	8	31	1	18	☆	▲	** ☆	* ☆	** ☆	☆
	12. あなたは、人前を気にしたりはにかみをおぼえることがありますか。	11	30	4	5	3	36	1	18	☆	* ☆	* ☆	* ☆	* ☆	☆
	13. あなたは、クラスや自分と同年代の人々のグループの前でしゃべらなければならないとき、心配したり不安に思ったりしますか。	17	24	6	3	7	32	4	15	☆	*	☆	** ☆	* ☆	☆
	14. 他の人々が観ているところで、ゲームやスポーツをやっており、それにぜひ勝とうと思っている場合、あなたは普通どのくらいまごついたり（あがったり）しますか。	13	28	4	5	6	33	2	17	☆	▲	▲ ☆	▲ ☆	▲ ☆	☆
	16. 人と一緒にいるとき、あなたはどんなことを話題にしたらいかにについて、困りますか。	25	16	5	4	15	24	4	15	☆	*	** ☆	☆	▲ ☆	☆
	17. とんでもないミスやバカにされるような大失敗をしでかしたとき、あなたはどの位長くそのことを気にしますか。	14	27	4	5	8	31	4	15	☆		☆	☆	☆	☆
	18. あなたは、初対面の人に会ったとき時間つぶしに話しをするのが難しいですか。	26	15	6	3	13	26	1	18	☆	**	*** ☆	▲ ☆	** ☆	* ☆
IV	1. あなたが知っている大部分の人々に比べて自分の方が劣っていると感じるようなことがありますか。	17	24	3	6	9	30	4	15	☆	▲	☆	☆	☆	☆
	5. あなたは、自分について落胆するあまり、何が一体価値あるものだろうと疑いをおぼえることがありますか。	16	25	5	4	18	21	11	8	☆			☆	☆	☆
	6. あなたは、自己嫌悪をおぼえること（自分で自分がいやになること）がありますか。	8	33	2	7	7	32	1	18	☆		☆	☆	☆	☆
	8. あなたは、自分にはうまくやれることなど全然ないといった気持ちになることがどのくらいありますか。	23	18	4	5	19	20	7	12	☆			☆	☆	☆
	4. あなたは、自分の過誤（ミス）は自分のせいだと感じる事がどのくらいありますか。	3	38	2	7	1	38	3	16	☆	☆	☆	▲ ☆	☆	▲ ☆

▲=P<.1, *=P<.05, **=P<.01, ***=P<.001

- 注) ☆はFisherの直接確率法、---は検定不能項目
 I…他者からの評価を気にする程度に関する因子
 II…自己の価値感に関する因子
 III…社会的場面における不安に関する因子
 IV…劣等感に関する因子

MasculineタイプとUndifferentiatedタイプを比較すると、第1因子の項目10・19・23及び第3因子の項目11・12・13・18に差がみられた。

FeminineタイプとUndifferentiatedタイプでは、第3因子の項目18のみに差がみられたにすぎない。

(5). 性役割と充実感との関連について

①男子について

表16は、男子の性役割4タイプ間における充実感尺度の項目分析結果である。各タイプ間で比較してみると、AndrogynousタイプとMasculineタイプでは、第1因子の項目1・2、第2因子の項目32、第4因子の項目24で有意な差がみられ、第1因子の項目18、第2因子の項目27、第4因子の項目22では、有意な傾向がみられたのみで、殆ど差がなかった。

次に、AndrogynousタイプとFeminineタイプについてみると、最も顕著な差は、第2因子にみられ、自己の目標・時間的展望について、Androgynousタイプの方が有意に高く評価している。また、第4因子では、項目16・21・22・28に有意差がみられた。第1因子では、項目10・12、第3因子では項目17・29に差がみられる。

AndrogynousタイプとUndifferentiatedタイプでは、第1因子の項目1に傾向があり、第2因子の項目5・15・20に差または傾向があり、第3因子の項目17・31に第4因子の項目21に差がみられ、項目28に傾向があった。

MasculineタイプとFeminineタイプを比較してみると、顕著なのは、第2因子で全項目について差がみられ、Masculineタイプの方が目標や時間的展望を高く肯定している人が多い。第4因子の項目16・21・24にも差はみられた。

MasculineタイプとUndifferentiatedタイプについては、第2因子の項目4・5・15・20・27・32に差がみられ、第4因子の項目16・21にも差はみられた。しかし、第1因子、第3因子では、有意差は認められなかった。

FeminineタイプとUndifferentiatedタイプには、殆どの項目において差はなく、僅かに第1因子の項目3、第3因子の項目31に有意な傾向がみられたにすぎなかった。

②女子について

女子の性役割4タイプ間における充実感尺度の項目分析結果を示したのが、表17である。

まず、AndrogynousタイプとMasculineタイプを比較してみると、僅かに第1因子の項目2・6・18、第2因子の項目9、第4因子の項目30に差がみられた。次に、AndrogynousタイプとFeminineタイプをみてみると、第2因子が顕著であり、項目4・5・9・15・20・27で差がみられ、その他、第1因子の項目2・6、第3因子の項目23、第4因子の項目21・30に差があった。

タイプ間で一番顕著に差が認められたのが、AndrogynousタイプとUndifferentiatedタイプである。全因子で顕著な差がみられるが、特に第1因子、第2因子では、第1因子の項

表16 男子における性役割4タイプ間についての充実感尺度の項目分析結果 (X² or Fisher直接確率)

		AND (57)		MAS (14)		FEM (64)		UND (11)		A-M	A-F	A-U	M-F	M-U	F-U
		H	L	H	L	H	L	H	L						
I	1. 毎日の生活がおもしろくない。	22	35	1	13	16	48	1	10	* ☆		▲ ☆	☆	☆	☆
	2. 毎日の生活にはりがある。	19	38	1	13	16	48	0	11	* ☆		---	☆	---	---
	3. 毎日の生活に退屈している。	19	38	2	12	24	40	1	10	☆		☆	▲ ☆	☆	▲ ☆
	6. 生活に充実感で満ちた楽しさがある。	14	43	1	13	11	53	1	10	☆		☆	☆	☆	☆
	10. 私には、うちこめる (夢中になれる、没頭できる) ことがある。	40	17	7	7	31	33	5	6		*				
	11. 毎日、毎日変化のない単調な日々でつまらない。	15	42	2	12	18	46	3	8	☆		☆	☆	☆	☆
	12. 私は、生きがいのある生活をしている。	15	42	1	13	9	55	0	11	☆	▲	---	☆	---	---
	18. 生きている実感があり、生きる喜びを感じる。	16	41	1	13	13	51	2	9	▲ ☆		☆	☆	☆	☆
	25. 日頃、「何もやる気がしない」と感じる。	22	35	6	8	23	41	2	9			☆		☆	☆
II	4. 何をすべきかということが、自分でもよくわからない。	25	32	8	6	19	45	2	9				▲	▲ ☆	☆
	5. 私は、精神的に自立していると思う。	20	37	6	8	11	53	1	10		*	▲ ☆	*	▲ ☆	☆
	8. 自分の信念にもとずいて生きている。	31	26	9	5	21	43	4	7		*	☆	*	☆	☆
	9. 私は独立心が強いと思う。	29	28	9	5	12	52	0	11		***	---	***	---	---
	14. 自分の生き方に自信がある。	21	36	6	8	8	56	0	11		**	---	**	---	---
	15. 自分の生き方は、自分で決めることができる。	44	13	13	1	27	37	4	7	☆	***	* ☆	*** ☆	** ☆	☆
	19. 私は、主体的に生きていると思う。	26	31	8	6	13	51	3	8		**		**		☆
	20. 生きていく上で自分の決めたことに責任が持てる。	36	21	11	3	20	44	2	9	☆	***	** ☆	** ☆	** ☆	☆
	27. いざとなるとどうしても人を頼ってしまう。	17	40	8	6	5	59	2	9	▲	**	☆	***	▲ ☆	☆
III	32. 自分の生き方を考えるとき、人の意見に左右されやすい。	21	36	10	4	9	55	2	9	* ☆	**	☆	*** ☆	*	☆
	7. 私ひとりが取り残されているようで寂しい。	31	26	6	8	29	35	6	5						
	13. 自分の理想とかけ離れた今の生き方に焦燥感を感じる。	15	42	2	12	18	4	0	11	☆		---	☆	---	---
	17. 誰も私を相手にしてくれないような気がする。	37	20	6	8	32	32	3	8		▲	* ☆		☆	☆
	23. 今の自分のままではいけないという焦りがある。	10	47	3	11	8	56	0	11	☆		---	☆	---	---
	29. 自分が情けなくいやになる。	19	38	4	10	8	56	1	10	☆	**		☆	☆	☆
	31. 私をわかってくれる人がいないと思う。	33	24	5	9	29	35	2	9			* ☆		☆	▲ ☆
	16. 私には、生きていく上でめざす目標がある。	35	22	11	3	27	37	4	7	☆	*	☆	* ☆	* ☆	☆
	21. 私には、毎日の生活の中で何かへの使命感がある。	30	27	6	8	11	53	1	10		***	** ☆	*	▲ ☆	☆
IV	22. 私には、未来に明るい希望がある。	26	31	3	11	13	51	3	8	▲ ☆	**	☆	☆	☆	☆
	24. 生まれてきて良かったと思う。	39	18	4	10	38	26	5	6	** ☆			* ☆	☆	☆
	26. 私は、「人間はひとりひとり責任ある存在だ」と思う。	34	23	6	8	33	31	6	5						
	28. 私は、価値のある生活をしていると思う。	20	37	3	11	13	51	1	10	☆	▲	▲ ☆	☆	☆	☆
	30. 自分の責任を果たすことに喜びを感じる。	37	20	8	6	37	27	0	11			---		---	---

▲=P<.1, *=P<.05, **=P<.01, ***=P<.001

注) ☆はFisherの直接確率、----は検定不能項目

I...充実感気分-退屈・空虚感因子 II...目標・時間的展望-目標・時間的拡散の因子

III...連帯-孤独因子 IV...信頼・時間的展望-不信・時間的展望拡散の因子

表17 女子における性役割4タイプ間についての充実感尺度の項目分析結果 (X² or Fisher直接確率)

		AND (41)		MAS (9)		FEM (39)		UND (19)		A-M	A-F	A-U	M-F	M-U	F-U
		H	L	H	L	H	L	H	L						
I	1. 毎日の生活がおもしろくない。	24	14	4	5	19	20	5	14	☆		*			
	2. 毎日の生活にはりがある。	23	18	2	7	14	25	4	15	▲☆	▲	*☆		☆	☆
	3. 毎日の生活に退屈している。	23	18	4	5	19	20	4	15	☆		*☆		☆	*☆
	6. 生活に充実感で満ちた楽しさがある。	21	20	1	8	12	27	2	17	*☆	▲	*☆		☆	▲☆
	10. 私には、うちこめる(夢中になれる、没頭できる)ことがある。	25	16	4	5	18	21	6	13	☆		*☆		☆	
	11. 毎日、毎日変化のない単調な日々でつまらない。	19	22	4	5	17	22	3	16	☆		*☆		☆	*☆
	12. 私は、生きがいのある生活をしている。	14	27	1	8	10	29	2	17	☆		*☆		☆	☆
	18. 生きている実感があがり、生きる喜びを感じる。	18	23	1	8	14	25	2	17	▲☆		*☆		☆	☆
	25. 日頃、「何もやる気がしない」と感じる。	18	23	4	5	13	26	6	13	☆		*☆		☆	
II	4. 何をすべきかということが、自分でもよくわからない。	23	18	3	6	14	25	5	14	☆	▲	*		☆	
	5. 私は、精神的に自立していると思う。	18	23	5	4	4	35	0	19	☆	***☆	---	**☆	---	---
	8. 自分の信念にもとづいて生きている。	20	21	6	3	12	27	2	17	☆		**☆	▲☆	**☆	▲☆
	9. 私は独立心が強いと思う。	17	24	7	2	5	34	4	15	▲☆	**	☆	***☆	**☆	☆
	14. 自分の生き方に自信がある。	15	26	3	6	9	30	0	19	☆		---		---	---
	15. 自分の生き方は、自分で決めることができる。	34	7	7	2	25	14	8	11	☆	▲	**		▲☆	
	19. 私は、主体的に生きていると思う。	23	18	4	5	16	23	3	16	☆		*☆		☆	*☆
	20. 生きていく上で自分の決めたことに責任が持てる。	30	11	5	4	21	18	4	15	☆	▲	***☆		▲☆	*☆
	27. いざとなるとどうしても人を頼ってしまう。	19	22	2	7	3	36	2	17	☆	***☆	*☆		☆	☆
III	32. 自分の生き方を考えるとき、人の意見に左右されやすい。	16	25	5	4	9	30	4	15	☆		☆		▲☆	☆
	7. 私ひとりが取り残されているようで寂しい。	26	15	6	3	19	20	5	14	☆		**		▲☆	
	13. 自分の理想とかけ離れた今の生き方に焦燥感を感じる。	14	27	3	6	11	28	6	13	☆				☆	
	17. 誰も私を相手にしてくれないような気がする。	27	14	7	2	20	19	6	13	☆		*		▲☆	
	23. 今の自分のままではいけないという焦りがある。	9	32	3	6	3	36	2	17	☆	▲☆	☆	▲☆	☆	☆
	29. 自分が情けなくいやになる。	11	30	5	4	6	33	0	19	☆		---	*☆	---	---
IV	31. 私をわかってくれる人がいないと思う。	28	13	4	5	22	17	8	11	☆		▲		☆	
	16. 私には、生きていく上でめざす目標がある。	23	18	3	6	22	17	7	12	☆				☆	
	21. 私には、毎日の生活の中で何かへの使命感がある。	17	24	0	9	4	35	3	16	---	**☆	*☆	---	---	☆
	22. 私には、未来に明るい希望がある。	16	25	3	6	13	26	3	16	☆		▲☆		☆	☆
	24. 生まれてきて良かったと思う。	27	14	7	2	26	13	11	8	☆				☆	
	26. 私は、「人間はひとりひとり責任ある存在だ」と思う。	32	9	8	1	25	14	14	5	☆				☆	
	28. 私は、価値のある生活をしていると思う。	10	31	3	6	7	32	2	17	☆		☆		☆	☆
	30. 自分の責任を果たすことに喜びを感じる。	31	10	3	6	22	17	8	11	*☆	▲	*	▲☆	☆	

▲=P<.1, *=P<.05, **=P<.01, ***=P<.001

注) ☆はFisherの直接確率、----は検定不能項目

I…充実感気分退屈・空虚感因子 II…目標・時間的展望—目標・時間的拡散の因子

III…連帯—孤独因子 IV…信頼・時間的展望—不信・時間的展望拡散の因子

青年期における性役割形成と生活感情との関連について

目25、第2因子の項目5・9・14・32を除く項目で有意な差がみられ、Androgynousタイプに充実感を感じ目標を持っている人が多いといえる。他に第3因子の項目7・17・31、第4因子の項目21・22・30にも差があった。

MasculineタイプとFeminineタイプにおいては、第2因子の項目5・8・9に有意差がみられ、第3因子の項目23・29、第4因子の項目30でも差があった。

MasculineタイプとUndifferentiatedタイプでは、第2因子に顕著な差がみられ、Masculineタイプの方が、目標を持ち、時間的展望を行える人が多いといえる。

FeminineタイプとUndifferentiatedタイプにおいては、第1因子の項目3・6・11に差がみられ、第2因子の項目8・19・20に差がみられた。

6. 考 察

(1). 自尊感情について

男女大学生の自尊感情の平均値について、遠藤が行った結果と本研究の結果が表18に示されている。遠藤の結果と比較してみると、本研究では男女ともに遠藤の結果を僅かに下回るが、同等の結果を得た。次に、性役割同一性の4タイプについての自尊感情の平均値を比べてみると、男女ともにAndrogynousタイプ、Masculineタイプが全体平均値を上回り、逆にFeminineタイプとUndifferentiatedタイプが下回っている。特に、男女ともにMasculineタイプの平均値が、一番高いことが示されている。また、男女各タイプ間の自尊感情の平均値についての検定結果(表4・7)から、Androgynousタイプ・Masculineタイプ間、Feminineタイプ・Undifferentiatedタイプ間では、有意差はみられず、Androgynousタイプ及びMasculineタイプとFeminineタイプ・Undifferentiatedタイプとの間に差が認められた。

表18 遠藤の自尊感情との平均値とSD
値の比較

	遠 藤	本 研 究
男 子	n=18 66.1(9.9)	n=157 65.18(17.45)
女 子	n=25 65.2(10.4)	n=114 62.45(16.01)
計	n=43 65.6(10.2)	n=271 63.81(16.73)

自尊感情との関連から性役割同一性をみると、Androgynousタイプ・Masculineタイプ群とFeminineタイプ・Undifferentiatedタイプ群に分けることができる。Androgynousタイプ・Masculineタイプは、ともに高男性性スコア群であり、Feminineタイプ・Undifferentiatedタイプは、低男性性スコア群であることから推察すれば、男性性が自尊感情に関わりを持っており、男性性が高い程より肯定的自尊感情を持つのではないかと考えられる。

次に、性役割4タイプと自尊感情4因子について、項目分析をした結果（表14・15）から考えてみると、男子では、有意差のみられた項目が、全ての因子に渡っていたのに対し、女子で有意差のみられた項目は、第1因子と第3因子に属する項目だけであった。すなわち、男子の場合、「自己の価値観」（第2因子）、「劣等感」（第4因子）に関するもの、換言すれば、自己の評価に関するものが自尊感情を左右し、女子の場合では、「他者からの評価を気にする程度」（第1因子）、「社会的場面における不安」（第3因子）に関するもの、つまり、自己よりも他者の評価に左右されるものが、大きく関わっていると考えられる。

Bakan¹¹⁾は、男女は生命の持つ基本的な2つの機能を分有し、それは、生命の自己保持・分離・統御といった特性をもつ「作動性(agency)」と他者と共にあること、他者との接触や協力といった特性をもつ「共同性(communion)」があると指摘し、また、男性はより作動的で、女性はいはより共同的であると指摘した。

本研究で得られた、自尊感情と性役割同一性との関係における男女の違いは、上述のBakanの考え方を支持できるものといえる。

(2). 充実感について

次に、充実感について考えてみる。本研究での充実感のスコアは、32から160の間に入り、全体の平均値が、男子では96.05、女子では98.46であり、比較してみると女子の方が、やや上回っていた。性役割同一性4タイプについて、充実感の平均値を比べてみると、男女ともにAndrogynousタイプ、Masculineタイプ、Feminineタイプ、Undifferentiatedタイプの順であり、AndrogynousタイプとMasculineタイプは、全体の平均値を上回っていた。また、4タイプ間の充実感の平均値の差の検定結果（表10・13）から、男子ではMasculineタイプとFeminineタイプ間のみ差がみられず、女子では、AndrogynousタイプとMasculineタイプ、MasculineタイプとFeminineタイプ間に差が認められなかった。

すなわち、充実感との関連から、性役割同一性をみると、男子においては、Androgynousタイプ、Masculine・Feminineタイプ、Undifferentiatedタイプの3群に分けられ、女子においては、Androgynous・Masculine・FeminineタイプとUndifferentiatedタイプに分けられる。このことから考えられることは、より高い充実感を感じるには、寄り高い性役割同一性を得るに関わりがあるのではないだろうか。

次に、性役割4タイプについて、充実感4因子の項目分析をした結果（表16・17）、男子で有意差のみられた項目は、4因子に属している。特に、第2因子、第4因子に属するものが、顕著に多かった。女子で有意差のみられた項目は、4因子の殆どの項目でみられた。これらのことから、充実感をみると、男子ではAndrogynousタイプとFeminineタイプ、MasculineタイプとFeminineタイプの第2因子に大きな差がみられた。全体のt検定結果と合わせて考えると、男性性スコアの高低が充実感、特に「目標・時間的展望」の違いに関連しているといえよう。女子について、4因子にわたるAndrogynousタイプとUndiffer-

青年期における性役割形成と生活感情との関連について

entiatedタイプでは、充実感の内容に明確な違いが説明できるが、Masculineタイプ、Undifferentiatedタイプでは、言及される程の特徴は、みられなかった。

7. 結 論

青年期の性役割形成と生活感情との関連について考えてきたが、明らかに指摘できることは、男子と女子では、その違いの内容については異なっているが、AndrogynousタイプとUndifferentiatedタイプでは男女とも自尊感情・充実感に違いがみられる。この事から考えると、肯定的な自尊感情、高い充実感を得るには、男女ともに「男性性役割」を獲得するということと、かかわりを持っているのではないだろうか。

つまり、青年期において性役割同一性を獲得していくことは、自尊感情、充実感を獲得していくことにつながり、そのことが青年期の人格形成に大きな影響を与えるのではないだろうか。

謝 辞

本研究を行うに当たり、機会を与えて頂きました福井秀加学長に深謝いたします。

また、御指導頂きました追手門学院大学文学部井上知子教授に厚くお礼申し上げます。

〔引用文献〕

- 1) Erikson, E.H., 1959, *Identity and the life style*. Psychological Issues.
(小此木啓吾 訳編 1973 アイデンティティとライフサイクル 誠信書房)
- 2) Bem, S.L., 1974, The measurment of psychological androgyny. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 42 155-162.
- 3) 芳田茂樹, 1989, 青年期における性役割形成についての研究, 大手前女子短期大学研究集録第9号, 229-244.
- 4) 遠藤辰雄, 1981, アイデンティティの心理学, ナカニシヤ出版.
- 5) 同 上 書
- 6) 五味義夫, 1981, 「生きがい」をもとめて, 藤永保 他編, 青年心理学, テキストブック心理学(5), 有斐閣, 第13章, Pp.147-157.
- 7) 西平直喜, 1979, 青年期における発達の特徴と教育, 小川利夫他, 青年期発達段階と教育 3, 子どもの発達と教育 6, 岩波書店, 第1章, Pp.1-56.
- 8) 西平直喜, 1973, 青年心理学, 共立出版.
- 9) 大野 久, 1984, 現代青年の充実感に関する一研究—現代日本青年の心情モデルについての検討—, 教育心理学研究, 32 12-21
- 10) 同 上 書
- 11) 東 清和・小倉千加子, 1984, 性役割の心理, 大日本図書.

大手前女子学園 (大手前女短大研集)「研究集録」第10号 (1990年)

〔参考文献〕

- 東 清和, 1989, 男性性・女性性と性格, 依田明編, 性格心理学新講座 2 - 性格形成 - 金子書房, 第3編, 第7章, Pp.248-264.
- Bem, S.L., 1981, *Bem Sex-Role Inventory: Professional Manual*, Consulting Psychologists Press Inc.
- Brooks-Gunn, J., & Matthews, W.S., 1979, *How children develop their sex-role identity*. (遠藤由美訳, 1982, 性別役割-その形成と発達-, 家政教育社)
- 福富 護, 1981, 青年と性, 藤永保 他編, 青年心理学, テキストブック心理学(5), 有斐閣, 第5章, Pp.47-58.
- 福富 護, 1985, 思春期の性と行動, 福村出版.
- 稲垣知子, 1970, 性役割の習得過程, 津留宏編, 性差心理学, 朝倉書店, 第6章, Pp.130-148.
- 井上知子, 1987, 性役割の概念と測定について, 追手門学院大学20周年記念論集 17-27.
- 井上知子, 1989, 女性と男性のありかた, 井上知子他著, 生き方としての女性論, 嵯峨野書院, 第5章, Pp.121-153.
- 加藤隆勝, 1980, 青年期の発達心理学的意義, 依田新他編, 青年期の発達の意義, 現代青年心理学講座 3, 金子書房, 第1章, Pp.3-50.
- Money, J., & Tucker, P., 1975, *Sexual signatures, On being a man or a woman*. (朝山新一他編, 1979, 性の署名, 人文書院)
- 中西信男・水野正憲・古市裕一・佐方哲彦, 1985, アイデンティティの心理, 有斐閣.
- 中西信男・水野正憲編著, 1985, 現代青年の理解と指導, 福村出版.
- Prager, K.J., & Bailey, J.M., 1985, Androgyny, Ego development, and psychosocial crisis resolution, *Sex roles* 13 525-536.
- 清水弘司, 1989, 青年期, 依田明編, 性格心理学新講座 2 - 性格形成 -, 金子書房, 第2編, 第4章, Pp.106-120.
- Siem, F.M., & Spence, J.T., 1986, Gender-related traits and helping behaviors. *Journal of Personality and Social Psychology*, 51 615-621.
- 鷗幹八郎他編, 1984, 自我同一性研究の展望, シンポジウム青年期 3, ナカニシヤ出版.
- Waterman, A.S., & Whibourne, S.K., 1982, Androgyny and psychosocial development among college students and adults. *Journal of Personality*, 50 121-133.
- 芳田茂樹, 1985, 青年期における性意識についての心理学的研究, 追手門学院大学文学部卒業論文.
- 芳田茂樹・井上知子, 1988, 大学生における性役割獲得の様相について, 関西心理学会第100回大会発表論文集, 21.
- 芳田茂樹・井上知子, 1989, 青年期の性役割と生活感情との関連について, 関西心理学会第101回大会発表論文集, 42.
- 依田 新, 1980, 過渡期の心理, 依田新他編, 青年期の発達の意義, 現代青年心理学講座 3, 金子書房, 第2章, Pp.53-69.

付 記

本研究は、追手門学院大学大学院文学研究科に提出した修士論文 (1987) の一部を加筆修正したものである。